

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	きずかな・こどもの発達支援教室		
○保護者評価実施期間	R7年 2月 1日		R7年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44人	(回答者数) 33人
○従業者評価実施期間	R7年 2月 12日		R7年 2月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援内容・専門性 個別支援計画の作成プロセスニーズと課題の客観的分析が高く評価 療育・コグトレの効果を回答者が全員が効果あり評価 活動プログラムの工夫(固定化していないイベント案)	利用者ごとに苦手を分析しモチベーションを保ちつつ 苦手な分野にも挑戦してもらっている。	療育内容の発展 新規療育プログラムの検討 既存プログラムの評価・改善 個別ニーズに応じたプログラムの開発
2	送迎サービス全回答者が適切な実施を評価 安全で確実な送迎体制の確立 保護者との連携 支援内容・利用者負担の説明 日常的な情報共有と発達状況の共有 面談・育児相談の実施	送迎の際に保護者と会えるので、最近の様子や変化があった時は早めの報告を心がけている。 保護者に悩みがあれば可能な限りいつでも相談に乗れる体制を心がけている。	安全運転の強化、交通ルール遵守の徹底
3	支援全般への高い満足度 子どもの通所への積極性	療育にしっかり重きを置きつつも楽しめる場所でもある事を意識してどうすれば楽しめるかを考えながら日々の療育、支援にあたっている。	今までの固定観念にとらわれない利用児童が楽しみ活動してくれるプログラム、療育内容、イベント案の策定

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペース十分な確保が不十分 バリアフリー化設備面での改善余地	活動スペースには限りがあるので空間を区切る事で 集中しやすい環境を整えたり、その日の利用人数に合わせた活動内容を考える等ハード面、ソフト面の両方からその日その日に出来ることを考えている。	令和7年4月頃、移転により現在の1.5倍の面積に改善
2	地域連携・交流の不足 障害のない子どもとの交流機会不足 非常時対応の体制 避難訓練等の実施 訓練の実施・周知に改善余地 周知方法の改善が必要	地域の社会資源を十分把握できていない。 一般地域の人との怪我、トラブルのリスクを考えると 積極的には地域との交流をしていない。 地域での受け入れが少なく、感染対策を考慮すると開催が難しい。	地域連携の促進 非常時対応の体制強化 地域の児童施設との連携体制の構築 交流イベントの定期的な開催 地域資源の活用計画の策定
3			